

## 東京女子大学 現代教養学部 国際英語学科

2018年度より「国際英語学科」がスタートします。これまで設置されていた英語系学科をベースに、現代の英語と文化のあり方を見据え、英語を活用する内容にカリキュラムを一新。これまで以上にグローバルな舞台で、活躍できる人物育成に取り組んでいきます。



■大学生  
廣瀬真希さん



■先生  
原田範行先生



■卒業生  
佐藤綾さん

### CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

#### ●プロフィール

#### 東京女子大学の魅力は何だと思われますか？



■先生

3つあると思っています。まずひとつはキャンパスの美しさ。伝統として受け継がれてきた清さ・正しさが今も息づいていることです。学生として過ごす生活環境あるいは卒業生となってキャンパスに帰ってきた時の心地良さが色々な意味で保たれていることです。正統派の大学といっても言い過ぎではないと思います。

■卒業生

オープンキャンパスに来場して、校舎や四季を感じる緑の風景に惹かれて入学を決めた学生も少なくありませんからね。

■先生

次に学びの方法です。東京女子大学は人文科学や社会科学の領域から数理科学に至るまで10以上の専攻があります。普通の大学ならば学部の単位で分かれるものが、学科・専攻という形で1学部にまとまっています。これは、文系・理系で分野は違えども学問という概念においてはひとつであることを示しています。このことは、キャンパスの構造にも表れていて、すべての教室や施設は廊

下で結ばれています。雨の日でも濡れることなく全ての場所に行けるのです（笑）。

### **そんな秘密があったんですね。全く知りませんでした。それでは最後の3つ目は？**

■先生

本学に限らず女子大の最大の魅力ともいえる部分ですが、共学とは明らかに違う雰囲気の中での切磋琢磨があることです。例えば共学になるとお互いに遠慮してしまう部分も出てくるでしょう。（良し悪しはあるにせよ）女性だけのキャンパスなら、何の遠慮もすることなく自由に自分の力を伸ばすことができる。さらにそれが落ち着いてできる環境こそが3つ目の良さだと考えています。

■卒業生

今、先生がおっしゃっていたこと、本当にそうだなと思います。女子だけということで連帯感も生まれやすいと感じます。

### **そんな東京女子大学ですが、来年創立 100 周年を迎えますね。**

■先生

ありがとうございます。初代学長の新渡戸稲造先生は、当時、立ち遅れていた女子教育の在り方を強く世に訴えながら大学運営に尽力されました。第2代学長の安井てつ先生は戦時中の弾圧と真っ向から立ち向かった方でした。いろいろな方がこの東京女子大学というものを守り育ててきました。その思いはずっと現在も受け継がれています。

■大学生

偉大な方々の努力あつての大学なのですね。

■先生

その通りです。例えば第2次大戦中、東京女子大学のシンボルでもあるチャペルや本館の建物を真っ黒にしていたのは知ってるかな？

■卒業生

初めて聞きました。そうなんですね。

■先生

空襲を受けないように目立たないように黒くしたそうです。本学のキリスト教主義を快く思わない人達もいましたが、安井てつ先生が粘り強く交渉してこの大学を守ってくださったのです。非常に強い信念のもとにこの大学は存在しているのですよ。

### **100 年を経て守られてきたこともあれば、時代の歩みに合わせて変化したこともあるかと思いますが、それについてはいかがでしょうか？**

■先生

2018 年度、「国際英語学科」と「心理・コミュニケーション学科」が新設されます。今回は「国際英語学科」について詳しくお話ししようと思います。

### **この学科は、学内でもとりわけ注目されているそうですね。**

■先生

「国際英語学科」は、これまでの英語系学科をベースに、現代の英語と文化のあり方を見据え、英語を活用する内容にカリキュラムを一新したものとなっています。

### **英語の教育においても定評がある東京女子大学ですが、さらにそこが強化されるわけですね。**

■先生

新渡戸稲造と言えば、日本における英学の先駆者、国際連盟でも活躍された方ですけど、新渡戸

先生が生きた時代から英学あるいは英語の役割は変化しました。例えば英語が国際共通語になったことがそのひとつですね。100年が経過し英語の役割や位置づけも多様化したからこそ、現状にあった「新・英学」を整備していこうというのが、新設に至った経緯です。

### さまざまな大学が英語の教育に力を入れていますが、東京女子大学の英語にかかわる教育の独自性はどこにありますか？

■先生

ひとつ大きな取組みとしては、半年間の留学を必修にすることです。

### 留学は何年次に行われるのですか？



■先生

2年の後期からです。

■大学生

必修にする大学はまだそれほどありませんよね。

■先生

IELTS や TOEFL のスコアによって行き先が決まりますが、どこで何を勉強するかはある程度学生自身がセレクトすることができます。

私はイギリスがいい、アメリカの西部で過ごしたいといった場所の要望、学びの分野との関係、さらには留学先大学との相性など細かな条件などは、専任教員をはじめとするスタッフがサポートをし、より納得のいく留学になるように準備していきます。

■卒業生

自分でプランをつくっていくタイプの留学、本当の意味で貴重な体験ができそうですね。

■先生

国際英語学科では、英語による卒業論文が必修です。その卒業論文を書き上げるための勉強として留学することも歓迎しています。例えば、自分は文学研究を主にやっていて、それに関連するものとしてフィルムスタディーズ（映画づくりの手法・知識に関する学問）を学ぶという留学も非常に良いものだとして認識しています。要するに実のあるアカデミックなレベルで留学をしてきなさいということです。

■大学生

手ごたえのある卒業論文ができそうですね。

■先生

留学をカリキュラムのひとつとして位置づけている大学も少なくありませんが、よく見てみると姉妹校や系列校、あるいは大学所有の海外の校舎で過ごすものもあります。いざ留学しても、満足のない勉強や体験ができずに、とりあえず海外に行ったという結果に終わってしまうこともあるでしょう。それではもったいないですよ。

### 「行き先を決める」というキーワードが出ました。具体的に世界のどこのエリアにいけるのでしょうか？提携校などの数もあわせてご紹介ください。

■先生

約100校になります。エリアとしてはアメリカ、イギリスをはじめとしたヨーロッパ各国です。それほど数は多くありませんがアジアの学校もあります。

**留学において気になるのは、留学費用の面や語学力がどれほどあれば大丈夫か?という部分だと思います。それについてはいかがでしょうか。**

■卒業生

必修となるとやはり気になりますね。

■大学生

東京女子大学に入学して、初めて海外に行く人もいますよ。

■先生

まずは語学力のほうからお話ししましょう。1～2年次と3～4年次の境に必修となる留学のタイミングを設けていますので、必然的に1～2年次では英語力を強化する授業を手厚く実施していきます。

■卒業生

留学を想定した授業も増えていくのでしょうか？

■先生

ありますね。1年次の基礎演習はもとより、1年次後期になるとスタディアブロード基礎演習など、留学を意識した授業が設定されています。

■大学生

授業を通じて英語力の底上げがされるので安心して海外にいきますね。

■先生

行く以上は、しっかりと成果を上げてほしいと思います。それについての努力は学校側も惜しみません。さて、次は留学費用に関してのことですね。これからさらに議論を重ねて決めていくことになりますが、現時点で留学する全員に対して本学独自の奨学金でサポートしていく予定です。

**成績優秀者に対する配慮などはありますか？例えば増額されるとか？**

■先生

世界トップクラスの大学への留学に対しては、留学先の授業料、渡航費、準備金の一部を授与する新渡戸稲造国際交流奨学金があります。成績優秀者については、さらに手厚いサポートも考えていきたいと思っています。

■卒業生

頑張った分だけ自分に返ってくるのはいいですね。

■先生

学びの方法について、もう数点お話しさせてください。「国際英語専攻」では、英語を学ぶ上で3つコースを用意しています。

**どれかを選ぶのですか？**

■先生

3つのコースを横断的に学んでいきます。学びの内容や英語が使われる場面によって特色を明確にしている、というイメージです。

**ユニークな考え方ですね。それぞれご紹介いただけますか。**

■先生

「イングリッシュ・スタディーズ・コース」は英米および英語圏の文学・文化研究、それから英語学を中心に学びます。英語そのものの成り立ちや、言語としての英語を国際的な視点から考察するのが主な内容です。「英語教育コース」は、まさに名前の通りです。子どもたちの英語力を伸ばすためにはどんな教育を実践すれば良いかを考えていきます。英語教材の開発を行ったりすることも特徴

でしょうか。もちろん、本学科のすべての学生が教員免許状の取得を目指すことができますので、これから本格化する小学校における英語教育なども含めて、よりプロフェッショナルな英語教育を実践する先生として活躍することも夢ではありません。

### 将来につながっていく学びといえそうですね。

#### ■先生

将来という側面では、最後の「英語キャリア・コース」がより実践的な学びになります。プロフェッショナル・イングリッシュ、通訳、翻訳、ジャーナリズムに関連する英語など、英語を実際に使いこなすための学びを深めるからです。

#### ■卒業生

将来の選択肢も広がりそうですね。

#### ■先生

英語を使った仕事をする際、例えば、企業に就職して国際関連の部門でがんばる道もありますし、また、国連などの機関で仕事をしたいと考えることもあるでしょう。いずれにしても、かなり高度なレベルでの英語力が要求されます。「英語キャリア・コース」では、そのレベルまで実践的な英語力を高めていけるカリキュラムを用意しています。

#### ■大学生

将来、英語を使って仕事をしたいという人には、明確な目的を持って取り組めるコースですね。

#### ■先生

さらに付け加えると、この3つのコースは、どれが欠けてもいけないと考えています。

#### ■卒業生

それはどういった意味でしょうか？

#### ■先生

1年次の段階で「はい、あなたは英語教育コースで」というように狭く考えるのではなく、横断的に学ぶことで、「英語力、英語に関わる文化、英語を使うことの意義」を包括的に身につけていくわけです。

#### ■卒業生

英語を話せる・書けるだけでも大変だと思いますが、そこからさらに一步踏み込んでいくのですね。

#### ■先生

こう考えてみてください。例えば英語教師なのに、イギリス古典の傑作であるシェイクスピアを全く知らない。その逆で海外の芸術や文献を研究しているのにニュースの英語がわからないとか。ちょっと物足りない感じがしませんか？

#### ■卒業生

確かにそうですね。

#### ■先生

ですからコースをわけているものの、いろいろな分野の授業を相互に学べるようにしたわけです。正確な英語を学ぶことは当然ですが、それ以上に期待しているのは、幅広い知識を持ち、物事を色々な角度から見ることができる柔軟性を兼ね備えること。そして、何かを発信したり、さまざまな人と交流する際に、英語を積極的に活用できる人物になってもらうことです。

## ●大学生活について

### お二人の入学動機を教えてください。

#### ■大学生

英語が好きで、漠然と「将来は英語を使った仕事がしたい」と。いくつか大学の候補がある中で、「東京女子大学は面倒見がいいし、あなたのもじめな性格に合ってるから」と母に背中を押されました。姉がこの東京女子大学に通っていて、一度キャンパスに連れて行ったもらった時の印象がよかったことも大きいですね。

#### ■卒業生

私も親の薦めがありました。あとはやはり気がねなく学生生活が送れる女子大であることも理由です。

### 廣瀬さんには現在の学生生活について伺えますか？

#### ■大学生

勉強を中心とした学生生活を送りたかったので、サークルなどには所属していません。普段はアルバイトもしつつ、勉強も手を抜かずしっかりとやっています。予習復習も欠かしませんし、普段の授業プラスアルファで語学の勉強もコツコツと。

#### ■先生

お手本みたいな大学生の日々ですね。感心します。

### 学びの楽しさはどこにありますか？

#### ■卒業生

ずっとイギリス文学に関心を持って勉強してきました。高校までだと英語を読んで物語の流れを理解する所まででしたが、大学からは人物の心情や社会的背景の考察や、言葉の多義性を知ることができました。それは高校時代では体験できない楽しさだったと思います。

### 勉強のしやすさでは、東京女子大学の環境はいかがですか？



#### ■大学生

図書館がとても良いと思います。静かに勉強したいときは地下にこもるとか、パソコンでレポートなどをまとめる時は個人ブースを借りるなどして集中しています。友達と話し合っ決めてたい時はグループ閲覧室を借りてできます。シーンにあわせていろいろな使い方ができるのが気に入っています。女子だけだからすごく図書館が落ち着くっていうのもあります。

#### ■卒業生

私も同感です。しゃべっている人はほとんどいないと思います。

#### ■大学生

あとは先生方との距離が近い大学だと思います。英語の先生は特に面白いですよ。ユニークで優しい先生もたくさんいらして、勉強でつまづいた時などは、気軽に相談に乗っていただけるのもうれしいです。

#### ■先生

大学の中には管理上の理由で、教員の部屋に入るにはカードキーが必要なところもありますが、東京女子大学では、そういう垣根をつくらないようにしています。いつでも門戸を開いて、学生

と教員が良好な関係でいられるようにしています。

■卒業生

気さくな先生が多いです。友達感覚とまでは言いませんが、結構それに近いものはあります。

■先生

「論文が書けません」とか言いながら、突然やってくる学生の姿もありますね。

●就職活動、仕事について

佐藤さんの現在のお仕事について教えていただけますか。

■卒業生

東京女子大学の中にある全学共通教育センターで、すべての学科の学生が履修する必須の英語の授業を担当する職員として働いています。

指導にあたる先生ということですか？

■卒業生

いえいえ、講師ではないですね。英語の授業全般をサポートすると言えいいでしょうか。例えば入学のタイミングや2年の終わり頃に英語力を試す目的でTOEFL ITP<sup>®</sup> テストを受けるのですが、その実施に向けた準備などを行っています。Oxford Bookwormsなどの多くの多読用の洋書を備えていて、そういった多読本の学生への貸出しや読書のアドバイスなども行っています。

■先生

あとは先生と学生の間を取り持つような役割も担ってもらっています。

■大学生

いなくなつては困る人ですね。

■先生

その通りです。彼女ががんばっているからこそ、先生方も学生たちも気持ちよく学びを進めることができます。

学生時代の経験が活かされていることはありますか？

■卒業生

外国人の先生とのやりとりも多いので、英会話はしっかり活かされています。あとは以前に翻訳の仕事をしていましたが、先ほど話題にも出た英語以外の知識といった部分が役立ちました。

■大学生

どんな部分ですか？とても興味があります。

■卒業生

洋書の翻訳を2年間ほどやっていました。ただ洋書を丸ごと1冊という感じではなくて、書店が発行する洋書のカatalogに掲載する文章です。

■先生

そういったものを見たことがない高校生もいると思いますので、ちょっと補足しますと、毎月発行されるたくさんの洋書や新書には、発行者や書店が用意するその本の内容をまとめた英文があって、彼女はそれを日本語に翻訳していたのです。

■卒業生

毎週4冊分ほど翻訳していました。主に人文・社会学に関連する学術書が多かったですね。



#### ■大学生

翻訳は、いろいろな専門知識や言葉を知っていないとできないのではないのでしょうか？

#### ■卒業生

歴史学、英語学、文学、心理学、法学、経済学。ざっと思出すだけでもこれだけの分野がありました。通常はこういう意味だけれど、分野によっては意味合いが違っていることも珍しくありません。ちゃんと正しい日本語に訳するためには、特定の用語の使い方などを全て調べなければいけない、ほぼ毎日のように図書館に行っていました。

#### ■先生

その訳を見るのは、全国の大学の教員や中学・高校の関係者がほとんど。間違った訳をしていたら大変なことです。さぞプレッシャーだったでしょう。

#### ■卒業生

そうですね。毎回ドキドキしていましたね。本当にこの訳で大丈夫かな？と。振り返ってみると、大学院時代を含めて長く文学の世界も勉強してきました。人の思いや世の中の動きなどについても考える機会が多かったので、単に英語だけでなく、多方面の学際的な分野の事も身につけられたのかなと思いますし、その経験と知識は、翻訳の仕事をする上での助けになったことは間違いありません。

### 就職先について教えてください。特に有利な業界などはありますか？

#### ■先生

一般的な傾向として金融・保険業界に強いです。もちろん英語を活かした仕事に進む人も大変多い。企業の国際関連の部署に総合職で入社する人もいれば、翻訳などの語学をフル活用するプロフェッショナルになる人もいます。シェイクスピアの作品を翻訳されている松岡和子さんや、テレビで活躍されている文化人など、そういう人たちのお手本もありますね。

### 東京女子大学というブランドも就職においてアドバンテージになるのでしょうか？

#### ■先生

非常にあると思います。例年卒業生を採用していただいている企業も少なくありません。手前味噌ではありますが、東京女子大学の卒業生は規律正しくまじめ、語学力を含めちゃんと勉強してきたことがわかるとの評価を頂戴しています。

### ● 5年後に向けて

### 将来の夢や目標について教えていただけますか。

#### ■大学生

就職するか、大学院に進むか悩んでいる状況です。今取り組んでいる分野は、学べば学ぶほど面白くなってきていて、これだけ一生懸命学んできた事を活かさないのももったいないかなと。もし就職するとすれば、人と接する仕事ですね。コミュニケーションをとりつつ英語も使えるような仕事を通じて、自分自身も成長していきたいと思っています。

#### ■卒業生

仕事と同時に別の大学でも研究アシスタントとして参加しています。そこでの研究を今年中にニュージーランドの学会で発表したいと思っていて、その準備を進めようとしています。

#### ■大学生

ちなみに研究テーマは何ですか？

■卒業生

西洋の音楽が日本に来た後、日本の文化とどのように融合し変化したか。そしてそこから生まれた新しい音楽や概念が逆に世界にどのような影響を与えていったかというものです。

■大学生

文化のキャッチボールのようですね。

■卒業生

そうですね。楽器だけではなくて、いろいろな側面から研究を続けています。私がお手伝いしている先生は「リコーダー」を研究対象としておられて、私は「アイドル」です。

■大学生

アイドルですか？

■卒業生

アメリカなどからの影響を受けて日本のアイドルはどう変わっていったか。また、日本で生まれた独自のアイドルの形が、他国にどう波及していったかをより深く突き詰めていきたいと考えています。

## ●高校生へのアドバイス

**高校生へのメッセージをお願いします。受験対策や英語の勉強の仕方など、高校生に役立つヒントがあれば教えてください。**



■大学生

英単語帳は常に携帯していました。歩きながら見ているくらいです。電車の中でもマスクをしてぶつぶつしゃべって発音を耳で覚えようとしていました。

■卒業生

英語の勉強では、高校の時に語彙をしっかりやっておくといいと思います。語彙が少なくないと、文学作品を少し読もうとしても、単語調べだけで苦勞してしまいます。単語や表現を覚える際、自分の興味のある分野から少しずつ広げていくと疲れません。私の場合は映画の中のセリフなども参考にしていました。一生懸命何を言っているか聞き取ろうとしているうちに、自然とリスニング力と語彙力がついてきました。また、何冊もの参考書に手を出すよりは、学校で使っている1冊を何周も繰り返す方が効果的かと思います。

■先生

単語については私も同感です。あと、やはり正しい発音を心がけると良いと思います。書くと話すでは全く違います。二人とも、工夫しながら勉強していたんだね。

■卒業生

私は計画を立てるのが得意ではなくて、気づくとテレビを見たりするタイプ。でも受験を控えているから勉強もしないといけない。だから、得点方式のように勉強したらポイントをつけるような遊びの要素を加えていました。

■先生

ポイントが貯まると何かもらえるの？

■卒業生

自分にご褒美をあげていました。お菓子とか。

## ■大学生

発想が面白いですね。ポイントが貯まって楽しいという感覚を「勉強をしたい」っていう方向に向けるようにしたのは上手いと思います。

## ■大学生

大学選びについては、オープンキャンパスに参加することをおすすめします。どういう学生や先生がいるかは、大学のホームページや学校案内だけではわかりませんからね。思っていた想像と違っていたこともあれば、その逆で、イメージよりもずっと印象がよかったです。まずはキャンパスにいてみるのが大事です。

### ●インタビューに答えていただいた方々●



#### ■先生

#### 原田範行先生

現代教養学部人文学科英語文学文化専攻教授  
埼玉県立熊谷高等学校出身。杏林大学外国語学部教授を経て2009年より東京女子大学教授。現在は現代教養学部長の任に就く。ケンブリッジ大学英文学部、ウルフソン・コレッジ研究員、日本英文学会理事などを歴任。日本英文学会会長。日本英文学会新人賞受賞。科学研究費審査委員表彰、厚生労働大臣表彰（訳書「ヴィジュアル版ガリヴァー旅行記」による）などを受けた。18世紀を中心とする近現代英文学、比較文学・文化論、出版文化史などを主な研究領域とする。



#### ■卒業生

#### 佐藤綾さん

東京女子大学教育研究支援課全学共通教育センター勤務  
埼玉私立開智高等学校出身。東京女子大学大学院人間科学研究科人間文化科学専攻修士課程修了。高校時代はハンドボール部の副部長を務めつつ英語の勉強にも精を出す。東京女子大学の環境の良さが入学の決め手だったそう。卒業後はフリーランスの翻訳家として活動しながら英語力を磨く。現在は母校に戻り、英語教育の一翼を担う存在として勤務中。



#### ■大学生

#### 廣瀬真希さん

東京女子大学現代教養学部人文学科英語文学文化専攻4年（2017年4月取材当時）  
千葉県立佐倉高等学校出身。高校時代はソフトテニス部で活躍。団体戦においては千葉県ベスト16という成績をおさめた。スポーツに明け暮れた高校時代から一転、静かな環境の東京女子大学を選んだのは、同じく東京女子大学に通っていた姉と母の薦めによるもの。将来の夢は英語を活用しながら多くの人と関わっていきけるプロフェッショナルになること。